製品名: CD59 ウサギポリクローナル抗体
カタログ番号: APRab08423
研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20℃で保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	16kDa

抗原情報

遺伝子名	CD59
別名	CD59; MIC11; MIN1; MIN2; MIN3; MSK21; CD59 glycoprotein; 1F5 antigen; 20 kDa homologous restriction factor; HRF-20; HRF20; MAC-inhibitory protein; MAC-IP;MEM43 antigen; Membrane attack complex inhibition factor; MACIF; Membrane inhibitor of reactive lysis; MIRL; Protectin; CD59
遺伝子 ID	966.0
SwissProt ID	P13987
免疫原	抗血清はヒト CD59 の内部領域由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲：51-100

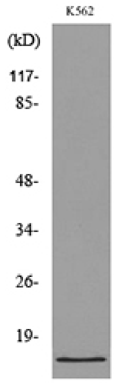
背景

この遺伝子は、補体媒介性細胞溶解を制御する細胞表面糖タンパク質をコードし、リンパ球シグナル伝達に関与しています。このタンパク質は補体膜侵襲複合体の強力な阻害剤であり、複合体の形成過程において補体 C8 および / または C9 に結合し、浸透圧孔形成に必要な C9 の複数コピーの複合体への組み込みを阻害します。また、このタンパク質は T 細胞活性化におけるシグナル伝達経路にも関与しています。この遺伝子の変異は CD59 欠損症を引き起こし、溶血性貧血および血栓症、さらには脳梗塞を引き起こします。この遺伝子には、同じタンパク質をコードする複数の選択的スプライシング転写バリアントが同定されています。 [RefSeq 提供、2008 年 7 月],疾患：CD59 の欠陥は、CD59 欠損症[MIM:612300]の原因です。,機能：補体膜侵襲複合体（MAC）作用の強力な阻害剤。MAC の集合体の C8 および / または C9 補体に結合し、浸透圧細孔の完全な形成に必要な C9 の複数コピーの取り込みを阻害します。この阻害剤は種特異的であると考えられます。タンパク質チロシンキナーゼと複合体を形成し、T 細胞活性化のシグナル伝達に関与します。,機能：尿中の可溶性形態は特異的な補体結合活性を保持しますが、細胞膜上での MAC 集合を阻害する能力は大幅に低下しています。,オンライン情報：CD59 変異 db,PTM：糖化。糖化は糖尿病患者で認められますが、非糖尿病患者ではごくわずかです。糖化 CD59 は MAC 阻害機能を欠き、糖尿病の血管合併症を引き起こす。,PTM：N-および O-グリコシル化。N-グリコシル化は主に、ラクトサミン延長部および外腕フコース残基の有無にかかわらず、二分岐複合体型構造のファミリーで構成される。また、相当量の三分岐複合体（22%）も存在する。Asn-43 オリゴ糖には、可変シアリル化も存在する。主な O-グリカンは、二糖である Gal-β-1,3GalNAc のモノシアリル化型であり、その結合部位はおそらく Thr-76 および Thr-77 である。可溶性尿 CD59 の GPI アンカーにはイノシトール関連リン脂質がなく、1 つ以上の単糖ユニットからなる 7 つの異なる GPI アンカーバリアントで構成される。主な変異体には、シアリン酸、マンノース、グルコサミンが含まれています。N-アセチルヘキソサミン-ガラクトースアームに結合したシアリン酸は、2 つの変異体に存在します。,類似性:1 つの UPAR/Ly6 ドメインを含みます。,細胞内局在:多くの組織で可溶性形態が見られます。,サブユニット:T 細胞表面抗原 CD2 と相互作用します。,

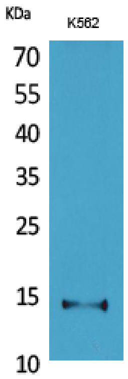
研究分野

補体および凝固カスケード;造血細胞系統;

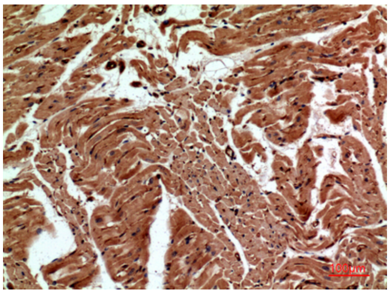
画像データ



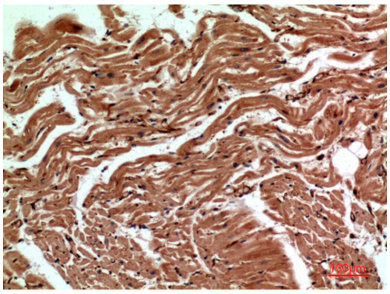
CD59 抗体を使用した K562 細胞の溶解液のウエスタン ブロット分析。



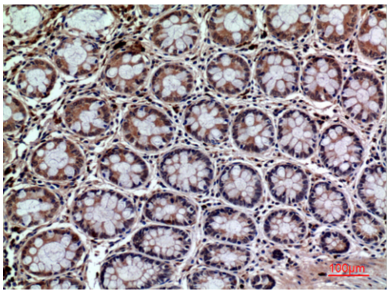
CD59 ポリクローナル抗体を用いた K562 細胞のウェスタンブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈された。



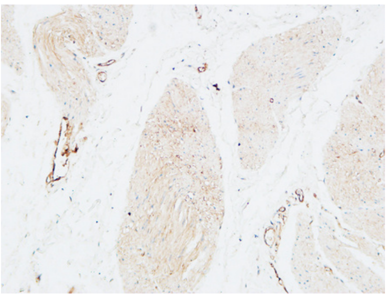
パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



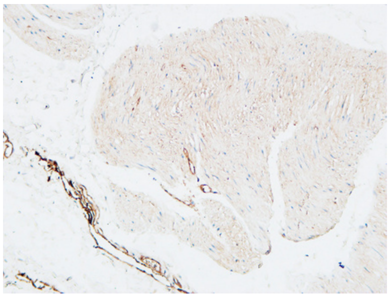
パラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



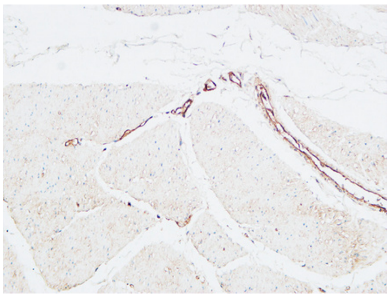
パラフィン包埋ヒト結腸の免疫組織化学分析、抗体は 1:100 に希釈された



パラフィン包埋ヒト膀胱の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈（4°、一晩）。2、高圧高温 EDTA（pH8.0）を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。



パラフィン包埋ヒト膀胱の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈（4°、一晩）。2、高圧高温 EDTA（pH8.0）を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。



パラフィン包埋ヒト膀胱の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈（4°、一晩）。2、高圧高温 EDTA（pH8.0）を抗原賦活化に使用。3、二次抗体を 1:200 に希釈（室温、30 分）。